





病害虫発生予察情報予報第1号


佐賀県農業技術防除センター



I. 予報の概要および各作物の特記事項


作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期・早植え)	いもち病 ^{注3)}	並	やや少	133~142 144~149	 いもち病
	ばか苗病	並	並	133~142	
	イネスズガムシ	やや多	やや多	170~171	
	1. 病害虫全般 育苗箱処理剤は、施薬量が少ないと防除効果が低下するので、適正な量を処理する。				
水稲 (普通期)	1. いもち病 普通期水稲については、既存の種子消毒剤にペノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底し、いもち病常発地帯では育苗期から防除を行う。また、育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいため、覆土を適正に行う。				

作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病 中晩生	並	やや少	278~280	 べと病
	ポトリチス葉枯症	やや少	並	280~281	
	ネギアザミウマ	やや少	やや少	287~288	
	1. べと病 一部の露地栽培中生品種を中心に二次伝染による病斑の発生がみられる。中晩生品種においては、早生品種の収穫で忙しくても散布間隔を空けずに7~10日間隔の薬剤防除を継続する(平成29年4月26日発表対策資料第2号参照)。				
イチゴ(育苗圃)	ハダニ類	やや多	やや多	205~206	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	195~197	
	アブラムシ類	多	多	210~211	
1. 親株でのハダニ類、うどんこ病、立枯性病害 健全苗を育成するため親株床から薬剤防除を実施する。立枯性病害(炭疽病、萎黄病、疫病)の苗での発生を抑えるため、発病した親株は、見つけ次第圃場外で適切に処分する。					
キュウリ	べと病	並	— ^{注4)}	175~176	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ類	やや多	—	173~174	
	褐斑病	やや多	—	178~179	
	アザミウマ類	やや多	—	152~156 187~188	
	コナジラミ類	並	—	149~151 186~187	
	1. アザミウマ類、コナジラミ類 栽培終了前まで薬剤防除を行い、圃場内から野外への飛び出しを抑制する。				

作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	並	—	222~223	 タバココナジラミ
	灰色かび病	やや少	—	217~218	
	コナジラミ類	多	—	149~151 225~227	
	1. 黄化葉巻病・黄化病（コナジラミ類） 一部の圃場で発生が見られる。発病株は抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、栽培終了前まで薬剤防除を行い、圃場内から野外への飛び出しを抑制する。				
ナス	すすかび病	並	—	232~233	 ミナミキイロアザミウマ
	灰色かび病	並	—	231~232	
	アザミウマ類	多	—	152~153 238~239	
	コナジラミ類	やや多	—	149~151 239~240	
1. アザミウマ類、コナジラミ類 今後、気温の上昇とともに増加するため、低密度時に防除を徹底する。栽培終了後はこれらが圃場外へ飛び出さないよう、ハウス密閉処理を行う。 2. タバコカスミカメの準備 次作にタバコカスミカメの導入を予定している圃場では、タバコカスミカメの誘引用に、ゴマ、クレオメの播種を5月中旬~6月上旬に行う。					
アスパラガス	茎枯病	並	並	317~318	 アブラムシ類
	褐斑病	並	並	318~319	
	斑点病	並	並	318	
	アザミウマ類	やや多	多	321	
	アブラムシ類	多	多	322	
1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 立茎時の発病前から薬剤防除を実施する。散布間隔は3週間を目安とし、前年に多発生した圃場や降雨日が続く場合は短縮する。茎枯病の発生を抑えるため、降雨時はサイドビニルを降ろし雨の降り込みを防ぐ。また、発病茎は見つけ次第地際部から切断し圃場外で適切に処分する。 2. アブラムシ類 発生圃場が認められる。若茎及び親茎への寄生による被害を防ぐため、発生が認められる場合は薬剤を散布する。					

作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	218~220	 ミカンハダニ
	かいよう病	並	並	222~224	
	灰色かび病	並	並	224~226	
	ミカンハダニ	多	多	242~244	
1. ミカンハダニ 一部圃場で発生が多い。殺ダニ剤に対する抵抗性発達を避けるため、4月~6月はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹や着花が少ない樹では、マシン油乳剤の散布を控え、殺ダニ剤で対応する。 2. 灰色かび病、チャノキイロアザミウマ、果樹カメムシ類等 本年は温州みかんの着花量が少ないと予想される。病害虫による減収を防ぐため、傷果・落果の要因となる各種病害虫の防除を徹底する。また、開花期間が長くなると予想されるため、開花状況を見ながら必要に応じて薬剤を追加散布する。					

作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫(抜粋)	
		平年比	前年比			
ナシ	黒星病	やや多	多	287~290		
	1. 黒星病 5~6月中旬までの薬剤防除は、原則的に保護殺菌剤を使用する。ただし、長雨等で薬剤散布ができなかった場合はDMI剤を散布する(薬剤は防除のてびき P287~285を参照)。					
ブドウ	黒とう病	並	並	334~336		
	べと病	並	並	337~339		
1. スピードプレイヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。 2. 果粒の汚れ及び果粉の溶脱の防止 袋かけ前(大豆大期)に薬剤防除を行う際は、果粒の汚れ及び果粉の溶脱が少ない薬剤を選定する。						
キウイフルーツ	かいよう病	1. かいよう病 葉の斑点症状(右図参照)や赤褐色の樹液漏出痕の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。また、 <u>全ての園において、感染防止のため6月まで銅水和剤又は抗生物質剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する。</u> 幼木は成木に比べ発病しやすいため、薬剤防除を徹底する。(H29年1月24日付け病害虫対策資料第21号参照、防除対策の詳細は防除のてびき P365~366を参照)。				かいよう病による葉の斑点症状
果樹全般	果樹カメムシ類	並	やや多	カキツ: 245~248 ナシ: 299 ブドウ: 344		チャバネアオカメムシ

作物名	病害虫名	5月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多	415~416	 カンザワハダニ
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多	420~421	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	421~422	
1. カンザワハダニ 本年は摘採が遅れており、前回の防除から散布間隔が空いている圃場では、発生の増加が予想される。そのため、被覆前に発生状況を確認し、密度が高い場合は防除を行う。この時期は一番茶の収穫前であるため、防除を行うに当たっては、使用する薬剤の収穫前日数に注意する。 2. チャノホソガ 本年は摘採が遅れているため、被覆する前に圃場での発生状況を確認し、発生がみられれば防除を行う。この時期は一番茶の収穫前であるため、防除を行うに当たっては、使用する薬剤の収穫前日数に注意する。 3. クワシロカイガラムシ 幼虫ふ化期は5月中~下旬頃である。園内のふ化状況を観察し、ふ化最盛期に防除を確実に実施する。 4. チャトゲコナジラミ 5月中~下旬頃(第一世代若齢幼虫期)にクワシロカイガラムシと同時防除を行う。 5. ナガチャコガネ 二番茶の萌芽開葉初期(5月下旬~6月中旬頃)が本虫の羽化期~成虫発生初期にあたり、防除適期となるため、発生圃場では薬剤防除を徹底する。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注4) キュウリ、トマト、ナスについては、平成28年5月に調査を実施しなかったため、前年との比較ができない。

農薬の適正使用

水稲育苗箱に農薬を施用する場合は、農薬が育苗箱からこぼれ落ちないように、畦畔等で行うか、育苗箱の下に不浸透性のビニルを敷く等の対策をとりましょう。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 6 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

5月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 5 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 4 月 25 日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 5 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (19.5℃)	40	やや高
降水量	40	30 (198.2 mm)	30	並

Ⅲ. 5月の予報

水稲（早期・早植え）

巡回調査
4月24日



巡回調査の圃場の様子

1. いもち病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

平成28年の穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稲（8月上旬）で10.7%（平年4.0%）、北部山間の早植え水稲（9月上旬）で5.8%（平年11.7%）、普通期水稲（10月上旬）で13.4%（平年13.0%）であり、早期は平年より多く、早植えは平年よりやや少なく、普通期は平年並であった。〈±〉

(2) 5月の気象予報

並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺に放置された予備苗から葉いもちが蔓延することがあるので、補植後は早急に取り除く。
- (2) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

2. イネミズゾウムシ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

発生時期：平年よりやや早い（前年よりやや早い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 越冬密度

昨年の発生は平年並であり、越冬密度は平年並と考えられる。〈±〉

② 巡回調査

被害株率0%（平年0.5%、前年0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件で、また越冬成虫の本田飛び込みの時期は平年よりやや早いと予想される〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年発生が多かった地域では本虫に登録のある箱処理剤を施用する。
- (2) 越冬成虫は4月中旬～6月上旬に水田へ侵入する。本田での発生状況の把握に努め、成虫が10株当たり5頭以上みられたら、粒剤を散布する。

タマネギ

巡回調査（16圃場）
調査日：4月19～21日



巡回調査の圃場の様子

1. べと病（中晩生）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 0.6% (平年14.0%、前年50.3%)
平年比 : やや少く(一~±)、前年比 : 少く(一)

②巡回調査以外の圃場

4月下旬に、中生品種を中心に一部の圃場で二次伝染による病斑の発生が見られる(十)

3) 防除上注意すべき事項

- (1)平成29年4月26日付け対策資料第2号参照。
- (2)特記事項を参照。

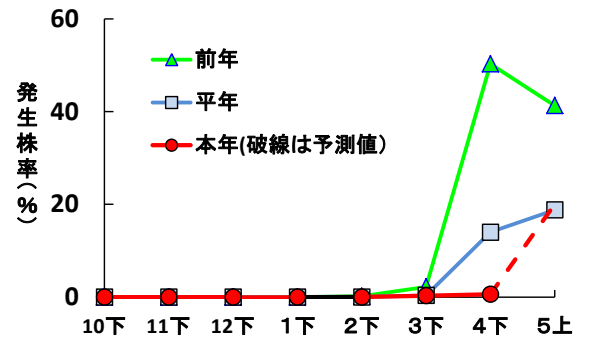


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 0.5% (平年15.0%、前年4.7%)
平年比 : 少く(一) 前年比 : やや少く(一~±)

(2) 5月の気象予報

並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1)発生初期の防除を徹底する。

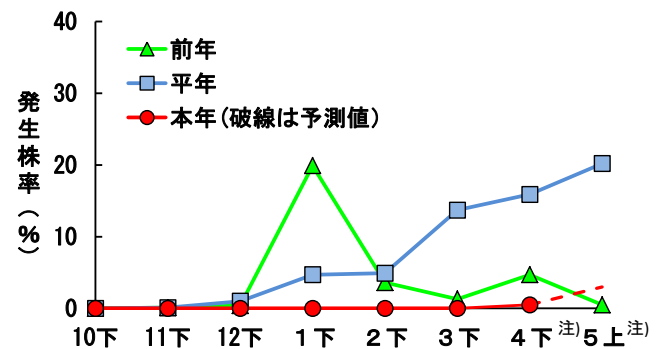


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 1.4% (平年22.5%、前年12.0%)
平年比 : やや少く(一~±) 前年比 : 並(±)

(2) 5月の気象予報

気温がやや多く、やや多発生の条件(±~十)

3) 防除上注意すべき事項

- (1)本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

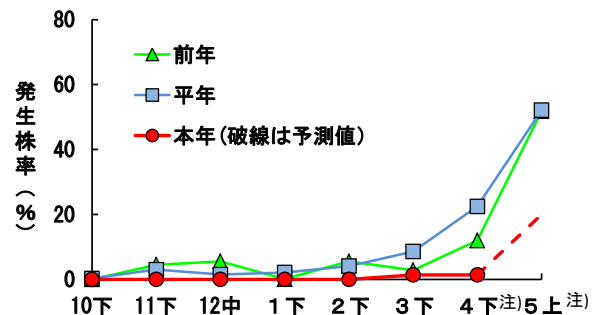


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

イチゴ(育苗圃)

(巡回調査9圃場、
調査日:4月20日~24日)

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 1.3% (平年3.2%、前年3.6%)



巡回調査圃場の様子

平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.2%（平年5.1%、前年1.2%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 5月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 親株からの防除を徹底する。

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：22.2%（平年5.2%、前年2.0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

キュウリ

巡回調査（7圃場）

調査日：4月21日～24日

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：20.0%（平年8.9%、前年1.9%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 5月の気象予報

並発生の条件（±）

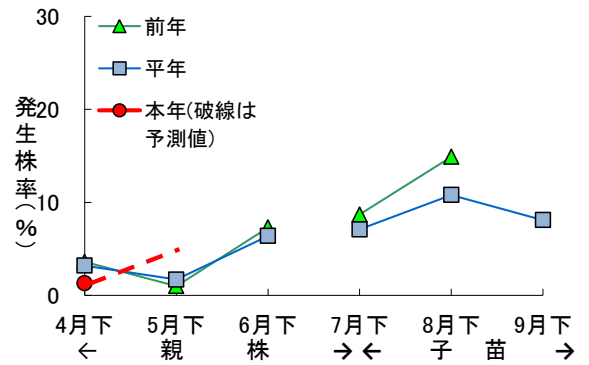


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

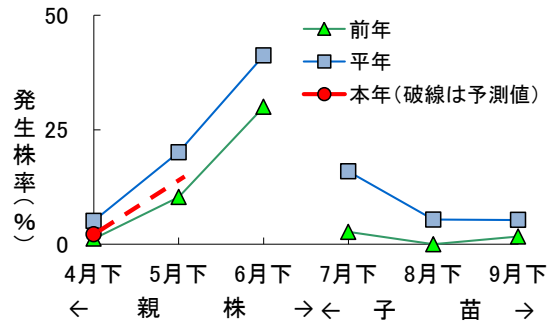


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

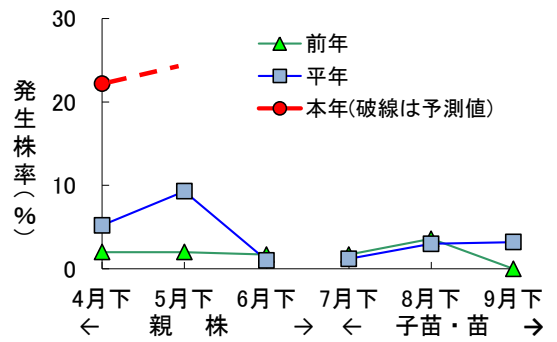


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移



巡回調査圃場の様子

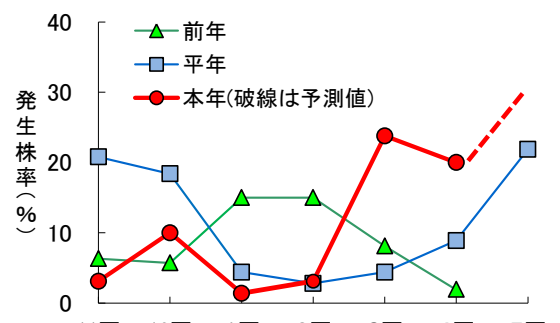


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生に注意し、計画的な防除を行う。

2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：16.4%（平年9.5%、前年0.5%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

(2) 5月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生に注意し、計画的な防除を行う。

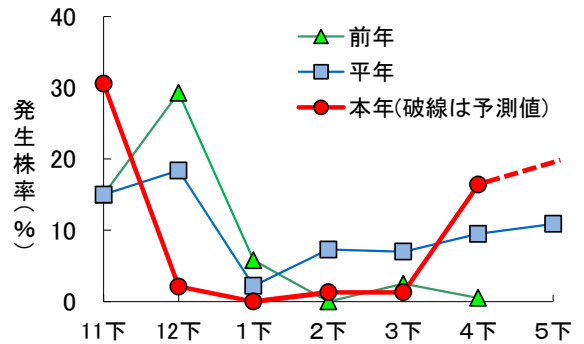


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：8.6%（平年9.3%、前年1.3%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

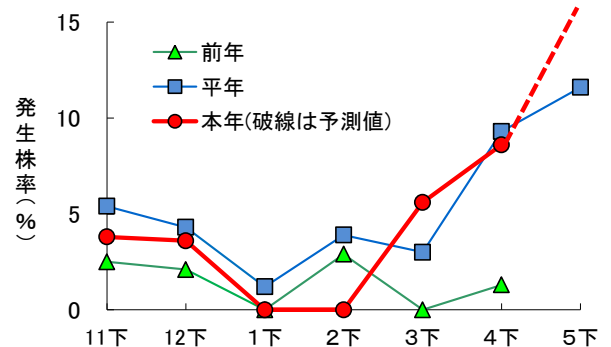


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査（8圃場）

調査日：4月20日～24日

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：8.1%（平年5.5%、前年9.4%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照



巡回調査圃場の様子

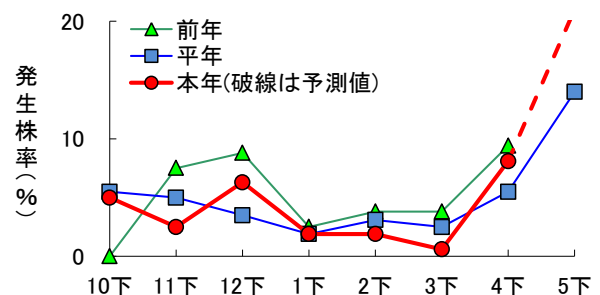


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

ナス（促成）

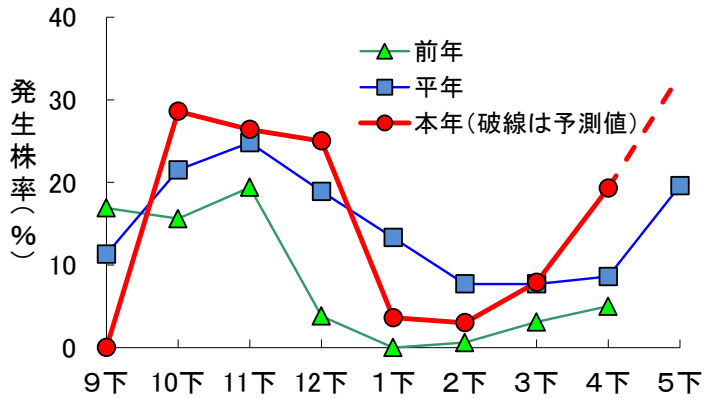
巡回調査（7圃場）
調査日：4月20日～21日



巡回調査圃場の様子

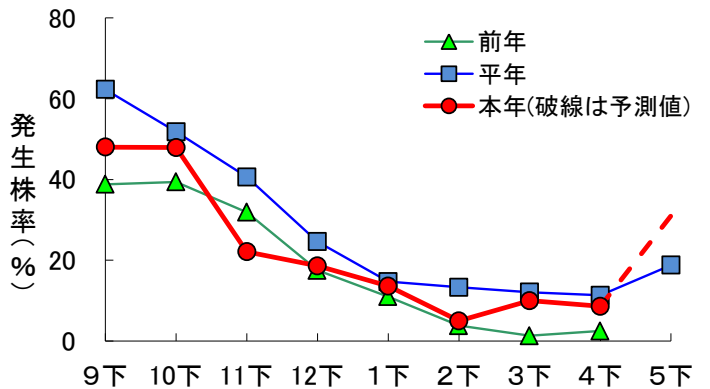
1. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率 19.3%（平年 8.6%、前年 5.0%）
平年比：多<+> 前年比：多<+>
 - ②5月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件<±~+>
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - (3) その他については特記事項を参照。



2. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率 8.6%（平年 11.3%、前年 2.5%）
平年比：並<±> 前年比：やや多<±~+>
 - ②5月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件<±~+>
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - (3) その他については特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

アスパラガス

巡回調査（8圃場）
調査日：4月20日～24日

1. 茎枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0.1%（平年 0.1%、前年 0.1%）
平年比：並<±> 前年比：並<±>

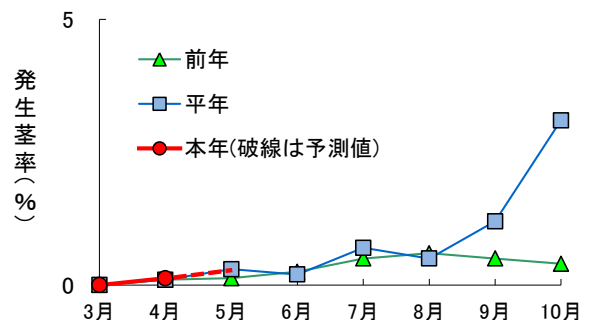


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

- (2) 5月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

2. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生株率：3.1%（平年0.4%、前年0%）
平年比：並〈+〉 前年比：並〈+〉
- (2) 5月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件〈±〜+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

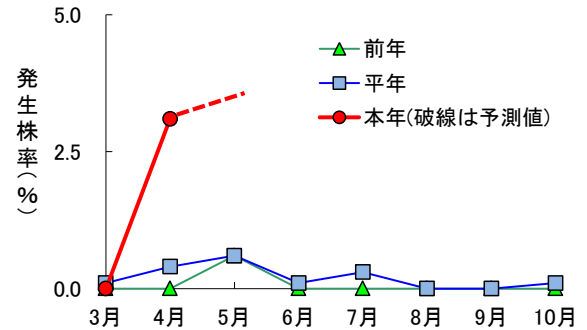


図1 アブラムシ類のアスパラガスでの発生推移



巡回調査圃場の様子

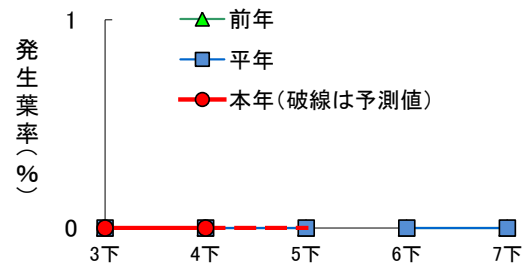


図1 カンキツそうか病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

カンキツ

巡回調査（8圃場）
調査日：4月20日～24日

1. そうか病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生葉率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 5月の気象予報
並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 果実への感染を防止するため、落弁期に防除を行う。
(2) 果実に薬害を生じる場合があるため、落弁期以降にデランフロアブルとマシン油乳剤の混用又は近接散布は行わない。

2. かいよう病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
① 巡回調査（図1参照）
発生葉率：0%（平年0.4%、前年0%）
平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉
- (2) 5月の気象予報
並発生の条件〈±〉

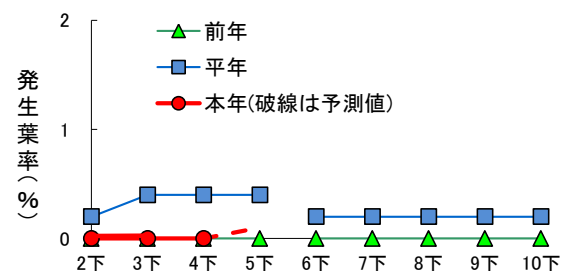


図1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年発生園や、風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、無機銅水和剤（クレフノン 200 倍加用）または IC ボルドー66D（アビオンE1,000 倍加用）で定期的に防除を行う。散布間隔の目安はクレフノン 200 倍加用無機銅水和剤で 20～25 日で、IC ボルドー66D の場合は 30 日とする。
- (2) IC ボルドー66D は、展葉期に単剤で散布すると、葉に石灰による薬害が発生するので、散布する際は、アビオンE1,000 倍を必ず加用する。

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1 参照）

発生葉率：12.6%（平年 3.8%、前年 17.4%）
 平年比：多（+） 前年比：やや少（-～±）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

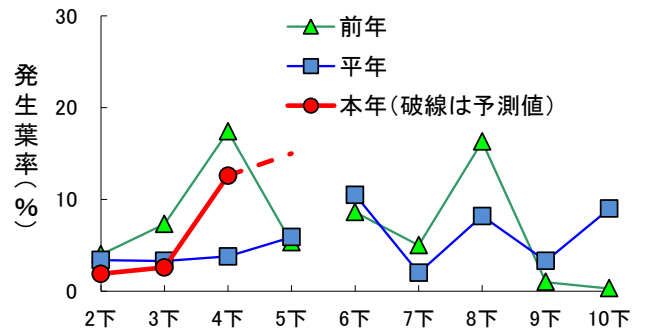


図1 ミカンハダニの発生推移
 注) 5月下旬までは旧葉を調査

ナシ

巡回調査（6圃場）
 調査日：4月19日

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1、2 参照）

発生葉率：0%（平年 0.0%、前年 0%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）
 発生果率：0%（平年 0.1%、前年 0%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）



巡回調査圃場の様子

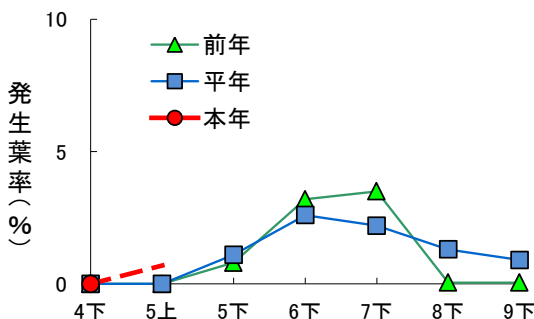


図1 ナシ黒星病（葉）の発生推移

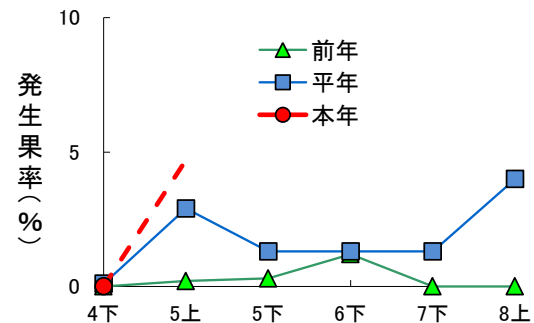


図2 ナシ黒星病（果実）の発生推移

(2) 主要感染期である開花期前後（本年4月1～20日）の気象（伊万里市のアメダスデータ）

本病の感染に好適な条件で推移したと考えられる（±～+）
 平均気温：15.0℃（平年 13.2℃、前年 15.4℃）
 降雨量：244mm（平年 121mm、前年 319mm）

- (3) 5月の気象予報
並発生の条件〈±〉

- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。

ブドウ

巡回調査 (6 圃場)
調査日 : 4 月 19 日~24 日

1. 黒とう病

- 1) 予報の内容
発生量 : 平年並 (前年並)

- 2) 予報の根拠

- (1) 発生の現況

- ①巡回調査 (図1 参照)

発生葉率 : 0% (平年 0%、前年 0%)
平年比 : 並〈±〉 前年比 : 並〈±〉

- (2) 5月の気象予報

並発生の条件〈±〉

- 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。
(2) 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期~新梢伸長期に防除を行う。



巡回調査圃場の様子

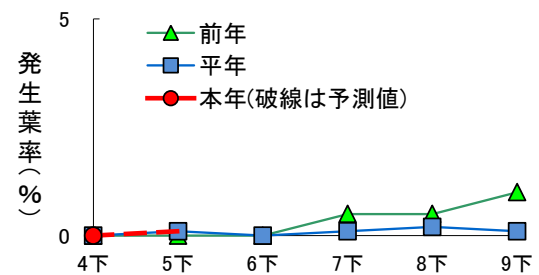


図1 ブドウ黒とう病の発生推移

2. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量 : 平年並 (前年並)

- 2) 予報の根拠

- (1) 発生の現況

- ①巡回調査 (図1 参照)

発生葉率 : 0% (平年 0%、前年 0%)
平年比 : 並〈±〉 前年比 : 並〈±〉

- (2) 5月の気象予報

並発生の条件〈±〉

- 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源となるため、必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。

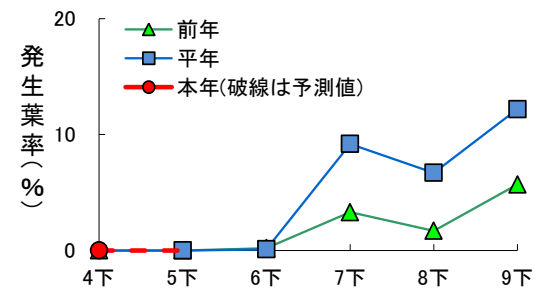


図1 ブドウベと病の発生推移

果樹全般

1. カメムシ類

- 1) 予報の内容 (4月~8月上旬)
発生量 : 平年並 (前年よりやや多い)

- 2) 予報の根拠

- (1) カメムシの越冬状況 (H29年2月に調査、表1参照)

- ①越冬地点率 : 18.2% (平年 38.6%、前年 9.1%)

平年比 : やや少〈一~±〉 前年比 : やや多〈±~+〉

- ②平均越冬虫数 : 0.14 頭/m² (平年 0.23 頭/m²、前年 0.03 頭/m²)

平年比 : 並〈±〉 前年比 : やや多〈±~+〉

本虫の越冬密度は平年並で前年よりやや多いと考えられることから、本年4月～8月上旬の果樹カメムシ類の果樹園への飛来量は、平年並で前年よりやや多いと予想される。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類の飛来については、カンキツ（開花期前後）、ナシ、ウメ、モモなどで特に注意する。
- (2) その他については、[H29年3月22日付け病害虫対策資料第22号](#)を参照。

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ成虫の平均越冬虫数¹⁾及び越冬地点率の推移(平成19～29年)。

調査地域	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平年	H29
みやき町	0.3	0	0	3.0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.40	1.0
吉野ヶ里町	0	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0.20	0
神埼市	0	0.3	0.3	0	0.3	0.7	0	3.0	1.7	0	0.63	1.3
佐賀市	0	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0.17	0
小城市	0.3	0.3	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.13	0
多久市1	0.2	0.8	0.3	0.7	0	0	0	0	0	0	0.20	0
多久市2	-	-	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.04	0
唐津市1	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	0.07	0
唐津市2	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04	0
唐津市3	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04	0.3
伊万里市1	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.06	0
伊万里市2	-	-	0.7	0.7	0	0.3	0	0.3	0	0	0.25	0
伊万里市3	-	-	1.3	0.7	0	1.0	0	1.0	0	0	0.50	0
武雄市1	0	0	0.3	0	0	1.3	0.3	0	0	0	0.19	0
武雄市2	-	-	0	0.3	0	0.3	0	0.7	0	0	0.16	0
鹿島市1	0	0	0.3	0.7	0	0.3	0	0	0.3	0	0.16	0.3
鹿島市2	-	-	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.16	0
鹿島市3	-	-	0.3	0.3	0	1.0	0.3	0	0.3	0	0.29	0
太良町1	0	0.1	0	0.7	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0.21	0
太良町2	-	-	0.7	0.7	0.3	0.7	0.3	0.3	0	0	0.38	0
太良町3	-	-	0.7	2.3	0.7	1.0	0	0	0.7	0	0.67	0
太良町4	-	-	0	1.0	0	0.7	0	0	0.3	0	0.25	0
平均越冬虫数	0.07	0.26	0.37	0.55	0.10	0.36	0.06	0.29	0.18	0.03	0.23	0.14
越冬地点率(%)	27.3	54.5	72.7	59.1	27.3	50.0	18.2	36.4	31.8	9.1	38.6	18.2

1) 各地点1m²あたりの虫数。 2) 平年は平成19～28年の10年間の平均値。

茶

巡回調査(7圃場)

調査日: 4月20日～24日



巡回調査圃場の様子(茶)

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率 4.0% (平年 4.2%、前年 3.6%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件(±～+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被覆栽培はカンザワハダニの発生を助長する傾向にあるため、一番茶の摘採が遅い園では圃場観察を徹底し、発生茶園では農薬の摘採前使用可能日数に注意して防除を行う。また、一番茶摘採後においても本種の発生が見られる園では防除を徹底する。

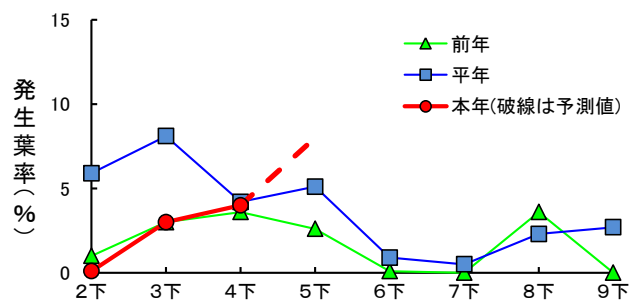


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

- (2) 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。

2. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0.4%（平年0.3%、前年0.6%）

平年比：並（±） 前年比：やや少（-～±）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 5月中～下旬にかけて発生が増加するため、一番茶摘採後、二番茶萌芽～開葉初期の防除を徹底する
- (2) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

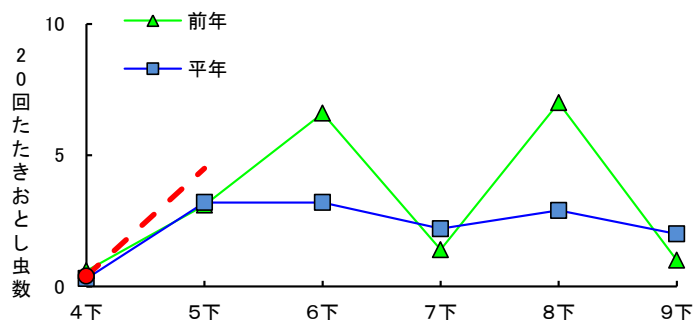


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：1.1%（平年2.1%、前年0.7%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 5月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 5月中～下旬にかけて発生が増加するため、一番茶摘採後、二番茶萌芽～開葉初期の防除を徹底する
- (2) 幼虫は葉裏に生息することが多いので、葉裏にも薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

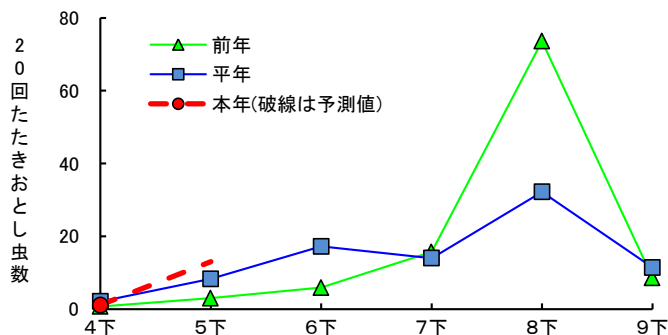


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp